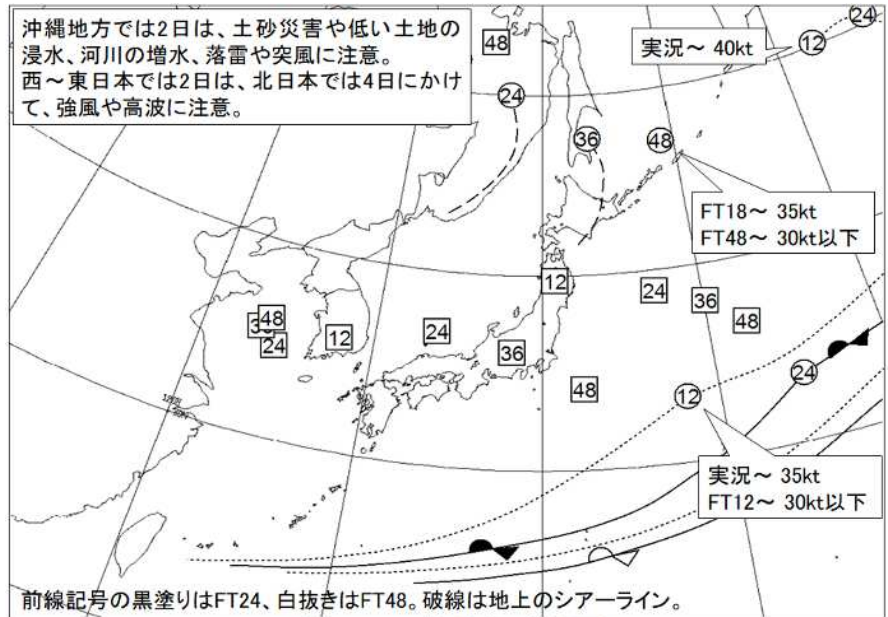


### 1. 実況上の着目点

① カムチャツカの東の500hPa 5220m以下の寒冷渦に対応する低気圧から、前線が日本の東や日本の南を通り沖縄の南にのびている。この前線上の日本の東には、別の低気圧があって東北東進。低気圧や前線に向かう下層暖湿気の影響で、沖縄の南の海上では、雷を伴って激しい雨を解析。

② 日本海と黄海に中心を持つ高気圧があって、ともに東へ移動している。①の日本の東の低気圧や前線と日本海の高気圧との間で気圧の傾きが大きくなり、東日本ではやや強い風が吹いて、波が高くなっている所がある。



主要じょう乱解説図

### 2. 主要じょう乱の予想根拠と解説上の留意点

① 1項①の日本の東の低気圧は2日は東北東進し日本のはるか東に進む。また低気圧からのびる前線は、2日は沖縄の南をゆっくり南下する。低気圧や前線近傍では850hPa  $\theta_e$  336K以上の下層暖湿気が流入して、大気の状態が不安定となっており、雷を伴った激しい雨の降る所がある。沖縄地方では2日は、土砂災害や低い土地の浸水、河川の増水、落雷や突風に注意。

② 1項①の日本の東の低気圧や前線と、1項②の日本海の高気圧との間で気圧の傾きが大きい状態が続くため、西～東日本の太平洋側では2日は、強い風が吹いて、波が高くなる所がある。伊豆諸島では吹走距離の長い北東風の影響も含めて、しける所もある見込み。西～東日本では、強風や高波に注意。

③ 500hPa 5400m付近の寒冷渦が2日から3日にかけてアムール川中流域から千島近海へ進む。対応する低気圧が、2日夜には沿海州付近へ進み、4日にかけて千島近海へ達する。また、この低気圧からのびるシアーラインが3日に北海道付近を通過する。低気圧と1項②の日本海の高気圧との間で気圧の傾きの大きい状態が続くため、北日本では3日のシアーライン通過時を中心に、4日にかけて強い風が吹いて、波が高くなる所がある。強風や高波に注意。

④ 西～東日本では、3日から4日にかけて広く高気圧に覆われて、概ね晴れる見込み。

### 3. 数値予報資料解釈上の留意点

総観場はGSM基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項 [量的予報と根拠] ①大雨ポテンシャル(06時からの24時間):高い所(100mm以上)はない。②波浪(明日まで):伊豆諸島4、北海道・関東3m。

5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。